

2016年12月18日

福音書からのメッセージ

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。

(マタイによる福音書1章23節)

今日の箇所の小見出しは、「イエス・キリストの誕生」となっています。「イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった」と始まる今日の箇所を読むときに、美しいクリスマス物語の始まりを予感する方もおられるかもしれません。しかしこのヨセフの物語は、楽しさいっぱいのもではありませんでした。

イエス様の誕生の次第として最初に書かれていることは、ありえないことでした。

「マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった」とあります。わたしたちですら、聖書を読んでいて心に疑いが浮かぶくらいですから、当事者であったヨセフの驚きと悲しみ、そして怒りは相当なものであったろうと思います。いったい誰が、聖霊によって身ごもったなどということを信じることができたでしょうか。

逆境に立たされたヨセフは、マリアと縁を切ることを選択します。それは決して、ヨセフが自分の立場を守るためだけに、マリアを見捨てようとしたものではありません。逆にマリアを守ろうとしたのです。当時、結婚や婚約関係にある人がいるにもかかわらず、他人の子どもを宿してしまうと、まず間違いなく女性は死刑になります。この出来事が公になってしまったら、マリアが裁かれるのです。ヨセフはそれを望みませんでした。だからひそかに縁を切ろうとします。しかしそれは神さまのみ心ではありませんでした。



主の天使はヨセフに、「恐れず、妻マリアを迎え入れなさい」と告げます。2000年も昔の最初のクリスマスの前、ヨセフの心は、悩み、苦しみ、悲しみ、そして恐

れで支配されていました。その中で、イエス様のご降誕はおこったのです。

教会のアドベントツリーのろうそくは、4本とも灯されました。しかしわたしたちの心の準備はどうでしょうか。心を静め、静かに祈り、耳を澄ましてイエス様の誕生を待つことができているでしょうか。心のろうそくに火を灯すことができているでしょうか。

今日のヨセフの物語はわたしたちに伝えてくれます。心が騒ぎ、辛い中にあった中で、神さまの前に立ったヨセフの信仰を。そしてわたしたちにも、今どんな状況にあったとしても、そのままの姿で神さまの前に立つことを求めておられます。たとえ心が乱れていても、静まらなかったとしても、神さまに心を向け、わたしたちの元に遣わされるイエス様を待ち望むのです。

自分の姿をさらけ出して、ありのまま、神さまのみ前へと進む。神さまは、そのようなわたしたちを、そのまま愛してください。

神さまはわたしたちと共におられます。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>